

## 高等学校 保健体育科（体育）学習指導案

指導者 世羅 晶子

- 日 時** 平成 28 年 10 月 15 日（土） 第 3 限（11:40～12:30）
- 場 所** グラウンド（雨天時は体育館）
- 学年・組** 高等学校Ⅱ年 女子 36 人（選択）
- 単 元** サッカー
- 目 標**
1. サッカーの特性を理解するとともに、基本的な個人技術やグループ戦術を習得し、ゲームの中で活かすことができる。
  2. 個人やグループの課題を的確に分析し、課題解決に向けて工夫することができる。
  3. 安全に留意しながら、協力して活動することができる。

### 指導計画（全 22 時間）

第一次	オリエンテーション	1 時間
第二次	個人技術・個人戦術	10 時間
第三次	グループ戦術	8 時間（本時 6 / 8）
第四次	ゲーム	3 時間

### 授業について

日本の女子サッカーは 2011 年 W 杯ドイツ大会で快進撃を続けたことから、テレビ放映が急激に増え、アメリカを破り初優勝したことは、全世界を驚かせ、大きな注目を集めた。日本サッカー協会の女子選手の登録数を見ると、女子チームの登録を認めた 1979 年は 919 人であったが、L リーグが発足した 1994 年は 8,500 人、W 杯優勝後は登録数が増加し、2013 年は 30,243 人と初めて 3 万人を超えた。広島県においても 2012 年にアンジュヴィオレ広島という新チームが L リーグに加盟し、それを含めチーム登録している県内の女子サッカーチームは 34（内、高校の女子サッカーは 12 校）と増加している。このような状況から分かるように、以前のようなサッカーは男子のスポーツであるという考えは少なくなっており、男女とも授業でサッカーをする機会をつくり、その競技の特性を味わうことの意義が認められてきている。

状況が刻々と変化するサッカーのゲームでは、一人ひとりが周りを見て状況を認識し、そこでの判断や決断が必要となる。そして、次のプレーの選択肢を増やし、イメージをもつことができるような取り組みが必要となる。ゲーム場面で「何を行うべきか」を適切に判断するには、周囲の状況、ボールの位置、スペースはどこにあるのか、ゴールとの位置関係などを把握し、次のプレーを選択することとなる。

しかし、実際の授業のゲームにおいては、ボールと自分の関係だけに注目し、ボールにかたまるという状況がよく見られる。また、パスが来たら慌てて、周りを見ず、目的がないままに蹴るという場面も多い。従って、ゲーム場面で「次に何を行うべきか」を、オープンスペースを有効利用するという観点で考えさせ、ボールにかたまらないよう、ボールを持っている人とボールを持っていない人の位置関係を把握し、チームでコミュニケーションをとりながらプレーすることを意識させたいと考えている。

これまでの授業の流れとしては、ボールタッチやトラップ、キックなどボールを操作する技術の習得を目指し、攻撃の個人戦術では、ボールを持って、自由になることができるオープンスペースを有効利用することを狙いとして、ドリブルで抜くか、パスをするかの状況判断を求めていった。個人技術・個人戦術に課題はあるが、次にグループ戦術に主眼をおき、攻撃において数的優位やオープンスペースを有効利用することに着目し、目的をもってプレーすることを目指している。グループ戦術をはっきりさせることによって、ゲームを評価する観点が明確になり、チームの課題を把握しやすくな

ると考える。その手立てとして他チームによるゲームの観察記録を行う。1つは、ボールの動きを記録し、もう1つはパスがチーム内でまわっているかを記録し、ゲームの様相やプレーへの関わり方を分析することで、課題を明らかにし解決に向けて次につなげたいと考えている。

### 本時の目標

1. 攻撃におけるグループ戦術を学び、自分と相手との関係を考えながら、自由になる空間を見つけシュートまでもっていくことができる。
2. 課題に対して、気づきや発見を共有し合い、協力して活動することができる。
3. ゲームにおいて、グループ戦術を活かし、目的をもってプレーすることができる。

### 本時の評価規準（観点／方法）

1. 攻撃におけるグループ戦術を学び、自分と相手との関係を考えながら、自由になる空間を見つけシュートまでもっていくことができる。（運動の技能／活動観察）
2. 課題に対して、グループで気づきや発見を共有し合い、協力して活動することができる。（思考・判断／活動観察・ワークシート）

### 本時の指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<導入> 出欠点呼 本時の説明 準備運動	○集合 ○本時の学習内容を把握し、課題を確認する ○準備運動	・健康観察・見学生徒への指導 ・課題の確認ができているか。
<展開> 課題の確認 グループごとに分かれての活動 ゲームの観察記録 まとめのゲーム	○グループ戦術の課題の確認を行う ○課題解決のためのグループ活動 ・グループ戦術 ○他チームによるゲームの観察記録から自チームのプレーを分析する ○ゲームを行う	・課題化しようとしているか。 ・オープンスペースを有効的に利用しようとしているか。 ・ゲームにおいてグループ戦術を意識してプレーをしているか。 ・正確に記録をしているか。 ・記録をもとにチームで分析ができているか。 ・分析したことをゲームに活かしているか。
<まとめ> 学習のまとめ 次時の課題の確認 片づけ	○本時の学習を振り返る ・グループの課題がどの程度解決されゲームに活かされたか。 ○次時の課題を確認する ○片付け	・気づきを共有できているか。 ・本時の目標を達成し、次時のめあてをもつことができたか。
<b>準備物</b>	サッカーボール    ゴール    ビブス    記録用紙	